

ガスビルトインコンロ 取扱説明書

商品コード

110-6061型

ごあいさつ

このたびは、大阪ガスのガスビルトインコンロをお買い上げいただきましてありがとうございます。

安全にご使用していただくために、機器を使用する前によく読み、十分に理解したうえで使用してください。

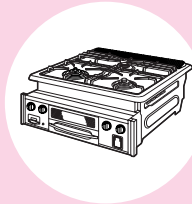
この取扱説明書は、いつでも利用できる場所に大切に保管してください。

別添の保証書は、記載してあるお買い上げ日、販売店名、保証内容などをよく確認し、大切に保管してください。

来客者などが機器を使用するときは、その前に必ず取扱説明書の内容を説明してください。

本書を紛失された場合や、ご不明な点があればお買い求めの販売店または、もよりの大阪ガスにお問い合わせください。

予備ガスコンセント付



型 式 名

C3G66KNZRG

お問い合わせ先

別添 大阪ガスのお問い合わせ先
をご参照願います。

おねがい ガスくさいときは、ガス栓を閉め窓を全開にして、(火気に注意して)大阪ガスに連絡してください。

大阪ガス株式会社

大阪ガス

も く じ

ページ

1. 使用前に

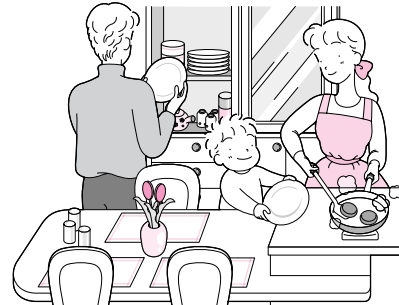
- 特に注意していただきたいこと ・1～6
- 各部のなまえ ・・・・9
- 使用前の準備 ・・・・8
 - ・ 乾電池の取り付けかた ・・・・8

2. 使いかた

- 予備ガスコンセントの使い方 ・9～10
- 点火・消火のしかた(こんろ) ・11～12
- 点火・消火のしかた(グリル) ・13～14
- 安全機能・温度センサーについて ・15～16
- 中華鍋・鍋の選びかたについて ・・・・17

3. 点検・お手入れ、他

- 点検・お手入れ ・・・・18～21
 - ・ 点検 ・・・・18
 - ・ お手入れ ・・・・19
 - ・ 点検・お手入れ後のセット方法 ・20～21
(トップレート・グリル受け皿)
- 故障かな?と思ったら ・22～23
- アフターサービス ・・・・24
- 仕様 ・・・・25



使用前に

使いかた

点検・お手入れ、他

1 使用前に 特に注意していただきたいこと

安全に正しく使用していただくために必ずお読みください。

ここに示した注意事項と絵表示は機器を正しく安全に使用していただき、お客様や他の人々への危険や、財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

誤った取り扱いにより生じる危害・損害の程度をつぎの四つに区分しています。

危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険または、火災が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性または、火災が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
お願い	危険・警告・注意の項目以外で特に守っていただきたい内容を示しています。

ここでの「人」とは、使用者のみでなく、その家族・来客者・機器を譲渡された人も含みます。危険・警告・注意・お願い表示に於いて、守らなかった場合に起こりうる現象を赤の文字で表記しています。(例：火災のおそれがあります。)

注意事項の絵表示と意味はつぎのとおりです。

一般的な「危険」・「警告」・「注意」	一般的な禁止	接触禁止
高温注意	火気禁止	必ず行う
発火注意	分解禁止	

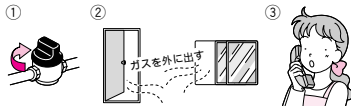
危険

ガス漏れ時の処置

- ①すぐに使用をやめ、機器のガス栓を閉じる。
- ②窓や戸を開け、ガスを外に出す。
- ③販売店または、もよりの大阪ガスに連絡する。

●上記①～③の処置が終わるまで絶対に火をついたり、電気器具（換気扇など）のスイッチの入・切や電源プラグの抜き差しおよび周辺の電話は使用しない。

火や火花で引火し、爆発事故を起こすことがあります。



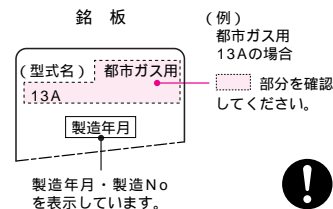
特に注意していただきたいこと

警告

使用ガスについて

- 必ず銘板(電池ケースフタの裏)に表示しているガスの種類(ガスグループ)を使用する。
表示以外のガスで使用すると爆発点火や異常燃焼などの原因になります。
- 転居された場合にも、供給ガスの種類が銘板の表示と一致しているか確認してください。

わからない場合は、お買い求めの販売店または、もよりの大阪ガスに連絡する。



確認

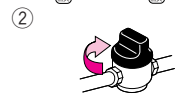
異常時・緊急時の処置

- 使用中に異常燃焼、異常音、臭気など感じられたときや地震、火災などの緊急の場合は、下記の手順に従ってあわてずすみやかに処置し、すぐにお買い求めの販売店または、もよりの大阪ガスに連絡する。

- ①バーナーの火を消す。
(器具栓つまみを「止の位置」にする。)



- ②機器のガス栓を閉じる。



火災・一酸化炭素中毒のおそれがあります。



閉じる

- 再使用するときは、9ページからの『使いかた』の手順に従って操作する。わからない場合はお買い求めの販売店または、もよりの大阪ガスに連絡する。

周囲の防火措置(機器の設置)について

- 機器の設置・移転および付帯工事は、お買い求めの販売店または、もよりの大阪ガスに依頼し、安全な位置に正しく設置する。
- 設置された機器が、壁などの可燃物との離隔距離を確保しているか確認する。
⇒別添の『工事説明書』を参照してください。
防熱板の取り付けについては、お買い求めの販売店または、もよりの大阪ガスに相談してください。
壁などが異常に過熱され、発火・火災のおそれや思わぬ事故の原因になります。
- 機器を設置した後の機器周囲の改装(吊り戸棚を付けるなど)については、お買い求めの販売店に相談する。
設置基準上問題になる場合があり、火災になるおそれがあります。

1 使用前に 特に注意していただきたいこと

警告

火災の予防

- 火をつけたまま離れたり外出・就寝しない。特に揚げ物の調理やグリル使用中は注意してください。油や魚が燃え上がることがあります。火災のおそれがあります。
- 機器の上や周囲に燃えやすいもの（カーテン・新聞紙・ティッシュ・ふきんなど）を近づけない。火災のおそれがあります。
- グリル排気口の上にふきんなどをのせたりふさいだりしない。火災のおそれや不完全燃焼の原因になります。
- 機器の周囲でスプレー、ベンジン、ガソリンなど引火のおそれがあるものを使用しない。また、周囲にスプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを置かない。引火して火災になるおそれや熱でスプレー缶内の圧力が上がり爆発するおそれがあります。



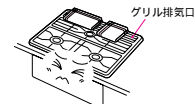
禁止



禁止



禁止



禁止



ガス事故防止

- 使用時の点着火および使用後の消火を必ず確かめ、外出や就寝の際は、機器のガス栓を閉じる。特にグリル使用時は注意する。また、使用中も正常に燃焼していることを確かめる。火災のおそれや思わぬ事故の原因になります。
- 機器のガス栓を閉じた後、再度使用する場合（機器のガス栓を開けた場合）は予備ガスコンセントに接続しているガス機器の器具栓が閉まっていることを確かめる。立消え安全装置のついていないガス機器の場合などガスが漏出し、火災や思わぬ事故の原因になります。

分解禁止

- 修理技術者以外の人は絶対に機器を分解したり、修理・改造を行わない。異常作動し、けがや思わぬ事故の原因になります。



分解禁止

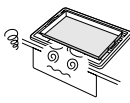
注意

使用上の注意

- こんろをおおような鉄板や直径34cm以上の鍋は使用しない。不完全燃焼による一酸化炭素中毒のおそれや機器の異常過熱の原因になります。
- ごとくをはずして鍋などを直接こんろに置いて使用しない。不完全燃焼や機器焼損の原因になります。



禁止



特に注意していただきたいこと

注意

使用上の注意

- 衣類の乾燥や炭火をおこすなど調理以外の用途には使用しない。火災のおそれや機器焼損の原因になります。
- 油料理は必ず温度センサー付バーナーを使用する。（温度センサーが付いていないバーナーは、天ぷら油過熱防止機能がはたらきません。）火災のおそれがあります。
- 魚などの焼きすぎに注意する。（魚などが燃え、グリル排気口から炎が出ることがあります。）火災のおそれがあります。
- グリル使用中はグリルとびらを開けたままにしない。（グリルとびらを完全に奥まで押し込む。）異常過熱によるやけどのおそれや機器の変形・変色の原因およびワークトップ（天板）をこがすおそれがあります。
- 鍋の種類によっては傾いたり、すべりやすいものがあります。鍋の底が凹んだ鍋、底がすべりやすい鍋、径の小さい鍋など不安定な状態で使用しない。また、中華鍋などの底の丸い鍋などは必ず取っ手を持ちながら使用する。鍋が傾いてやけどのおそれがあります。
- グリル内に食品くず、油くず、布などがあると発火するため、使用前に必ず点検する。火災のおそれがあります。
- グリルを使用するときはグリル水入れ皿に必ず300ml以上の水を入れる。また、続けて使用するときはその都度必ず水を補給する。ただし、水の表面に脂が多くなったら水を入れ替える。火災のおそれや異常過熱により機器焼損の原因になります。
- グリル水入れ皿に水以外のもの（アルミはくや市販のグリル石など）を入れて使用しない。火災のおそれや機器焼損の原因になります。
- グリル焼網の上や下にアルミはくを敷いて使用しない。アルミはくの上に脂がたまり、発火するおそれがあります。
- グリル使用中および使用直後はグリルとびらがガラスに水をかけない。グリルとびらがガラスが割れてけがをすおそれがあります。
- グリルとびらに重いものを乗せたり、強い力を加えたり、物をつつけたりしない。グリルとびらがはずれ、けがのおそれや機器損傷の原因になります。
- トッププレートに水を入れて使用したり、機器内に水をこぼしたりしない。機器の故障の原因になります。
- フッ素樹脂加工のトッププレートなので市販されている焼網は使用しない。フッ素樹脂の損傷の原因になります。

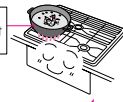


禁止



禁止

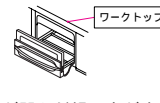
油料理は温度センサー付バーナーで



禁止



禁止



ワークトップ

1 使用前に 特に注意していただきたいこと

⚠ 注意

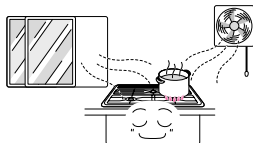
ガス事故防止

- 使用中は窓を開けたり、換気扇を回すなど必ず換気を行う。

他の燃焼機器と同時に使用した場合など不完全燃焼による一酸化炭素中毒のおそれがあります。

ただし、自然排気式給湯器およびふろがまを使用している場合は換気扇を回さず窓などを開けて換気してください。

排気ガスが逆流し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



やけどに注意

- 点火操作時や使用中はバーナー付近に顔や手および衣類などを近づけない。

衣類が燃えたり、やけどのおそれがあります。

- 使用中、使用直後は操作部以外はさわらない。また、鍋やフライパンの取っ手などが熱くなっている場合があるため注意する。特に幼児や小さな子供のいる家庭では注意する。

やけどのおそれがあります。

- グリル使用中はグリル排気口から高温の排気熱が出るため、手や顔を近づけない。

やけどのおそれがあります。

- 魚を取り出すときなどグリルとびらガラス部にさわらない。また、グリル水入れ皿を引き出すときは、グリルとびら取っ手以外はさわらない。

やけどのおそれがあります。

- グリル使用中は鍋やフライパンの取っ手をグリル排気口に向けて使用しない。また、強火で使用する場合は鍋やフライパンなどの取っ手に注意して火力を調節する。

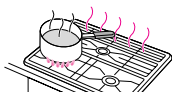
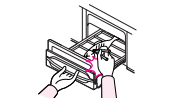
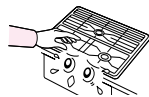
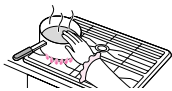
やけどのおそれや取っ手の破損の原因になります。

- グリル使用中および使用直後はグリル水入れ皿の水が高温になっているため、グリル水入れ皿の出し入れや持ち運びする際は水がこぼれないよう注意する。

やけどのおそれがあります。

- みそ汁を温めなおすときは火力を弱めにし、よくかき混ぜながら温めなおしてください。強火で急に温めなおすと鍋底に沈んだみそが突然噴き上がり、鍋がはねあがってやけどをするおそれがあります。

《特にだし入り豆みそ(赤みそなど)のときは注意してください。》



特に注意していただきたいこと

⚠ 注意

日常の点検・お手入れについて

- お手入れ時は手袋などで指先を保護し、機器が十分冷えてから行う。また、18～21ページの『点検・お手入れ』で指定している部品以外はさわらない。やけどやけがのおそれがあります。
- バーナーキャップを水洗いした後は水気をよく切ってからセットする。異常燃焼や機器の故障の原因になります。

補助具について

- この機器専用の付属品あるいは指定のもの以外は使用しない。
- アルミはく製する受け皿(市販品)は使用しない。不完全燃焼による一酸化炭素中毒のおそれや機器の異常過熱の原因になります。

子供に注意

- 幼児や小さな子供にさわらせないように注意する。思わぬ事故の原因になります。

お願い

お手入れについて

- バーナーに煮こぼれがかかったときはその都度お手入れを行ってください。煮こぼれがかかったまま放置すると炎口が詰まり、機器内部で燃えることにより機器焼損のおそれがあります。
- 19～21ページの『お手入れ』に従って行ってください。

長期間使用しない場合

- 機器のガス栓を閉じてください。(長時間使用しない場合も機器のガス栓を閉じてください。)
- 各部の汚れを取り除き、ほこりや異物が入らないようにビニールなどをかけてください。
- 乾電池を電池ケースより抜いてください。乾電池の液漏れにより、機器をいためる原因になります。

機器の設置について

- 冷暖房装置の吹き出し口の近くや強い風が吹き込む場所には設置しないでください。火が途中で消えたり不完全燃焼の原因になります。

キャビネットの開閉について

- こんろを弱火で使用している場合は、機器下のキャビネットとびらをゆっくりと開閉してください。火が途中で消える場合があります。

この機器は一般家庭用です。

- 業務用のような使いかたをすると機器の寿命が著しく短くなります。この場合の修理は保証期間内でも有料となります。

乾電池について

- 乾電池の⊕⊖方向を間違えないでください。点火できなくなります。
- 乾電池は古いものと新しいものを混ぜて使用しないでください。乾電池の破裂や液漏れの原因になります。

温度センサー付バーナー使用時について

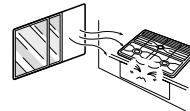
- 温度センサーにより鍋底の温度を検知して自動消火するため、風があたるとセンサー機能が正しくはたらかないことがあります。温度センサー付バーナーを使用するときは窓から吹き込む風やエアコン、扇風機の風などがこんろの炎にあたらないように配慮して使用してください。

トッププレートの設置について

- トッププレートは確実に取り付けてください。不完全燃焼の原因になります。

その他

- フードの清掃の際などこんろの上には絶対に乗らないでください。



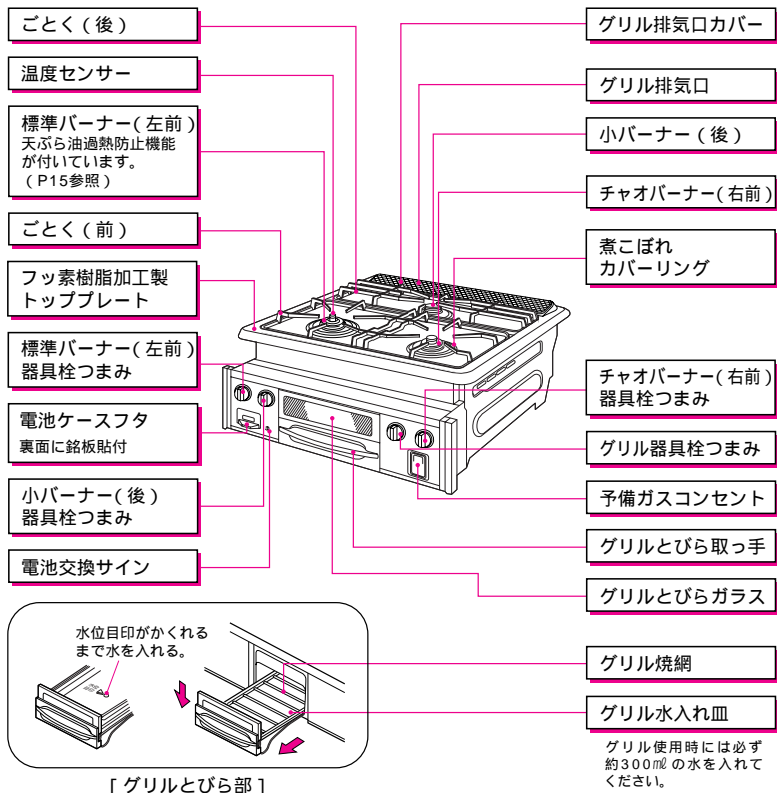
魚などを裏返すときグリル水入れ皿を約1分以上引き出したままにする場合は一旦火を消してください。センサーがはたらいて消火する場合があります。

機器を廃棄する場合

- 乾電池を使用しているガス機器を大型ゴミなどで廃棄される場合は、必ず乾電池を取りはずしてください。そのまましておきますと思わぬ事故になることがあります。

1 使用前に 各部のなまえ

各部のなまえ



[グリルとびら部]

特長

標準バーナー		グリルバーナー		グリルとびらガラス	予備ガスコンセント	電池交換サイン
天ぷら油過熱防止機能	こんろ消し忘れタイマー	グリル水切れ検知センサー	グリル消し忘れタイマー			
油の温度が高くなりすぎると自動消火します。(P15参照)	点火後約2時間で自動消火します。(P15参照)	グリル水入れ皿の水が少なくなると自動消火します。(P16参照)	点火後30分で自動消火します。(P15参照)	グリルを引き出すと下にさがり、魚などが取り出しやすくなっています。	ファンヒーターや1口こんろが接続できます。	電池の交換時期をお知らせします。(P18参照)

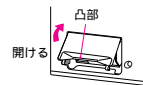
1 使用前に 使用前の準備

機器のガス栓を全開にする

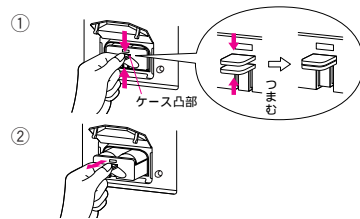
乾電池の取り付けかた
乾電池は単1形を2個使用します。



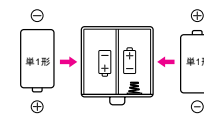
1. 電池ケースフタ下部の凸部を指でひっかけた矢印の方向に開ける。



2. [電池ケースの取りはずしかた]
①電池ケース前面にある上下のケース凸部をつまむ。
②電池ケースを手前側に引き出す。



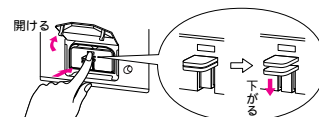
3. [乾電池の取り付けかた]
乾電池の⊕⊖を確かめて図のように矢印方向に従って電池ケースに組み込む。



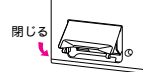
お願い

- 乾電池の⊕⊖方向は間違えないでください。
点火できなくなります。

4. [電池ケースの取り付けかた]
電池ケースを一旦挿入して最後にケース凸部の上部を押す。
電池ケースを完全に押し込んだときにカチッと音がし、下のケース凸部が下がってロックされます。



5. フタを元どおりに閉じる。

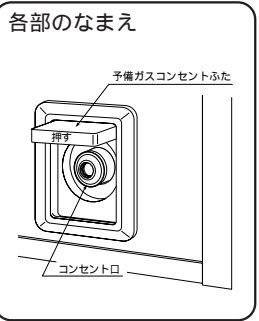


お願い

- フタは約130度(角度)程開きます。それ以上は無理に開かないでください。
フタが破損する場合があります。

2 使いかた 予備ガスコンセントの使いかた

予備ガスコンセントの使いかた



適用ガス機器

- ガス炊飯器、ガスファンヒーター、1口こんろなどの一般家庭用ガス機器(最大使用可能ガス消費量が6.2kW(5,300kcal/h以下のもの)を使用してください。(特にガステーブルは点火不良や不完全燃焼などをおこし思わぬ事故の原因となるため使用しないでください。)

使用前の注意

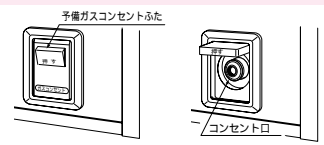
- ガスソフトコードを使用する場合はゴム管用ソケットに差し込み、ゴム管止め(樹脂チューブ)で必ずとめてください。詳しくは、コンセント継手(カチット)の取扱説明書を参照してください。



ガスコードなどの取り付けかた

1. 予備ガスコンセントのふたをあける

- ふたの“押す”の表示部を押してふたをあけてください。



2. ガスコードなどの接続

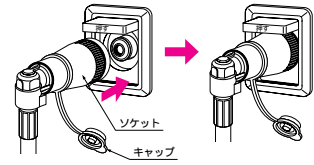
- ガスコード(または、ソケット付ガスソフトコード(9.5mm))のソケットをコンセント口にカチッと音がするまで確実に差し込んでください。詳しくは、ガスコード(またはゴム管用ソケット)の取扱説明書を参照してください。

ソケットを差し込むことで予備ガスコンセントが『開』状態となります。

- ガスソフトコード(ゴム管)を直接コンセント口に接続しないでください。

△注意

- ソケット内部とコンセント口に異物の付着がないことを確認してから接続してください。また、ガスコンセント口に傷がつかないように、ていねい・清潔にお取り扱いください。**ガス漏れの原因になります。**

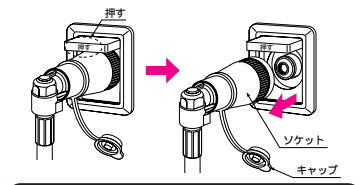


ガスコードなどの取りはずしかた

1. ガスコードなどの取りはずし

- 予備ガスコンセントのふたの“押す”表示部を押してください。ガスコード(または、ソケット付ガスソフトコード(9.5mm))のソケットが確実にはずれるまでふたを押してください。

ソケットを取りはずすことで予備ガスコンセントが『閉』状態となります。



●ご使用後はソケットのキャップをしってください。異物などが付着しますと、ガス漏れの原因になります。

お願い

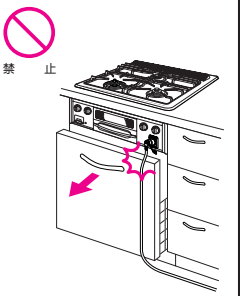
- ガスソフトコードの長さは3m以下のものを使用してください。3m以上のものを使用すると流量不足となり、接続されたガス機器の性能が十分発揮されない場合や予備ガスコンセントの「ヒューズ」がはたらかない場合があります。
- 予備ガスコンセントは清潔に使用してください。溶剤(シンナー、ベンジンなど)、クレンザーは使用しないでください。

『ヒューズ』とは・・・ガスソフトコードのはずれなどにより多量のガスが流出したとき、安全のためガスをシャ断する装置(過流出安全装置)のこと。

△注意

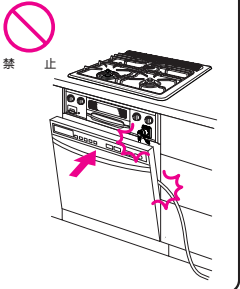
- 予備ガスコンセントに接続するガスコード(またはガスソフトコード)は機器の上を通したり、高温部に触れたりしないようにしてください。**火災のおそれや思わぬ事故の原因になります。**
- 予備ガスコンセントとキッチンのワークトップ(天板)上でお使いになるガス機器とは接続しないでください。キッチンのワークトップ(天板)上以外でのご使用のガス機器にご利用いただけます。ガスコード(またはガスソフトコード)を引っかけたりすると接続されたガス機器が転倒するなど、機器の損傷や火災のおそれ、また思わぬ事故の原因になります。
- 予備ガスコンセントに接続したガスコード(またはガスソフトコード)は、ときどき点検する。
・ひび割れ、折れ曲がりがないか。
ガス漏れ・火災のおそれや接続したガス機器の不完全燃焼の原因になります。

●万一、『ヒューズ』が作動し、ガスが止まった場合やガス臭い場合は接続されたガス機器の器具栓を「閉」にした後、ソケットをはずし予備ガスコンセント、ガスコード(またはガスソフトコード)およびガス機器に異常がないか調べた後、再度接続してください。接続後に同じ現象が起こる場合は、ソケットをはずし、機器のガス栓を閉じた状態でお買い求めの販売店または、もよりの大阪ガスに連絡する。**思わぬ事故の原因となります。**



- 予備ガスコンセントに衝撃を加えて傷をつけたり、異物を付着させたりしない。
- ガスコード(またはガスソフトコード)などの継ぎ足し、二又分岐などしない。**ガス漏れのおそれがあります。**
- ガスコード(またはガスソフトコード)を無理に引っ張らないでください。**故障の原因になります。**

- 長期間ガスを使用しないときには、ガスコード(またはガスソフトコード)をはずし、予備ガスコンセントのふたを閉じておいてください。
- 予備ガスコンセントと接続されたガス機器は、専用のガスコードまたはガスソフトコード(ゴム管)+コンセント継手(カチット)により接続します。接続されたガス機器により接続具は異なりますので注意してください。
- 予備ガスコンセントに接続するガスコードは、L型またはS型のいずれも使用できます。ガスソフトコード(ゴム管)使用時のコンセント継手も同様です。ただし、ビルトインオープン(庫内容量が48ℓタイプの機種)と設置した場合、あるいはガスキャビネットの形態(スライド式キャビネットやガスキャビネットの右開きタイプなど)によっては、L型タイプを使用しないでください。扉の開閉時にガスコード(またはガスソフトコード)にあたり、接続具が損傷しガス漏れのおそれや思わぬ事故の原因になります。



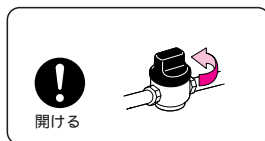
使いかた

2 使いかた 点火・消火のしかた(こんろ)

点火・消火のしかた(こんろ)

1. 点火前に

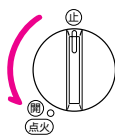
消火の状態では機器のガス栓を全開にしてください。



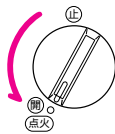
2. 点火

器具栓つまみを押し、**点火**の位置まで回す。

- パチパチとスパークして点火します。
- 着火を確認してから手を離してください。



- 点火してから数秒間そのままの位置で手を離さないでください。
- 手を離すと器具栓つまみ**開**の位置にもどります。
- 鍋などの水滴はふき取ってください。
- 標準バーナーは約2時間連続使用すると安全のため自動消火します。(こんろ消し忘れタイマー)



ワンポイントアドバイス

点火の際は、ごとくに鍋やかんののせると点火がよりスムーズです。

△注意

- 使用するバーナーの器具栓つまみを間違えて使用しない。
- 別のバーナーが点火し、火災のおそれがあります。
- 点火時バーナーに点火したことを確認する。火災のおそれや思わぬ事故の原因になります。

- 配管内に空気が入っていて点火しにくい場合があります。配管内の空気が抜けるまで点火操作を繰り返してください。

標準バーナー(温度センサー付)を使用するときのコツ

予熱する場合

- 目玉焼きなどの料理をするときは、1分位予熱をしてください。
- 予熱時間が長すぎると安全機能がはたらいで消火する場合があります。

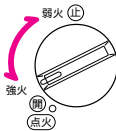


カレー、ジャムなどの加熱をする場合

- トロミのある料理は、沸騰するまで鍋を動かさないでください。
- 水分の少ないものは水を加えてください。
- 火力は中火力を使ってください。
- 沸騰後は中身の温度にムラができないよう時々まぜてください。

3. 火力調節

器具栓つまみを矢印方向に回して調節する。



- 器具栓つまみを**開**方向へまわすと火力は強く**止**方向へまわすと火力は弱くなります。
- 炎を見ながら調理に適した位置に加減してください。
- 強火から弱火にするときは、器具栓つまみをゆっくり回してください。
- 火力を絞り過ぎますと、立消え安全装置がはたらいで消火することがありますが、故障ではありません。

△注意

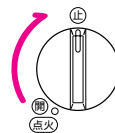
- 強火で使用する場合、鍋やフライパンなどの取っ手に注意して火力を調節する。やけどのおそれや取っ手部の損傷の原因になります。

弱火で使用しているとき、機器下のキャビネットとびらを閉閉したり、窓からや冷暖房装置の風の影響で消火する場合があります。



4. 消火

器具栓つまみを**止**の位置まで回す。



△注意

- 使用後の消火を必ず確かめ、機器のガス栓を閉じる。
- 火災のおそれや思わぬ事故の原因になります。



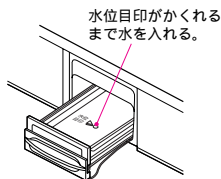
閉じる



2 使いかた 点火・消火のしかた(グリル)

初めてグリルを使うときは、必ずグリル水入れ皿に約300ml(約コップ1杯半)の水を入れ、15分程度のから焼きをしてください。(グリル庫内の油を焼ききるため、煙やおいが出ても異常ではありません。)

1. 点火前に



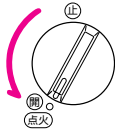
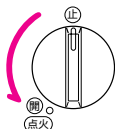
- グリルを使うときは必ずグリル水入れ皿に約300ml(約コップ1杯半)の水を入れてください。
- 水を入れる量の目安は、グリル水入れ皿を水平にし、中央部にある凸部の先端まで水を入れてください。

水を入れずに使用すると、調理途中で自動消火します。(水切れ検知センサー)

2. 点火

器具栓つまみを押し、**(点火)**の位置まで回す。

- パチパチとスパークして点火します。
- 着火を確認してから手を離してください。



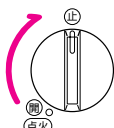
△注意

- 使用するバーナーの器具栓つまみを間違えて使用しない。
別のバーナーが点火し、火災のおそれがあります。

- 点火してから数秒間そのままの位置で手を離さないでください。
- 手を離すと器具栓つまみは**(開)**の位置にもどります。
- 配管内に空気が入っていて点火しにくい場合があります。配管内の空気が抜けるまで点火操作を繰り返してください。
- グリルとこんろを同時に使用すると炎が赤色になることがあります。異常ではありません。
- グリルは、火力調節しないでください。
- 約30分連続で使用すると自動消火します。(グリル消し忘れタイマー)

3. 消火

器具栓つまみを**(止)**の位置まで回す。

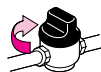


△注意

- 使用後の消火を必ず確かめ、機器のガス栓を閉じる。
火災のおそれや思わぬ事故の原因になります。



閉じる



グリル使用中、使用直後は・・・

△警告

- グリル排気口をふさがない。
火災のおそれや不完全燃焼の原因になります。

△注意

- グリルを使用するときは、グリル水入れ皿に必ず約300mlの水を入れる。
- 水以外のものを入れて使用しない。
- 安全のため、使用するたびに水を入れ替える。
- 魚などの焼きすぎに注意する。
- 続けて使用するとき、その都度、必ず水を補給する。ただし、水の表面に脂が多くなったから水を入れ替える。

火災のおそれや機器焼損の原因になります。

- なべの取っ手などをグリル排気口へ向けない。
- グリルとびら付近はさわらない。
- グリルとびらガラスに水をかけない。
- 使用中、使用直後の魚の出し入れや水の補給については、グリル水入れ皿などが熱くなっていますので、機器から取りはずさずに行ってください。
やけどやけがおよび機器焼損の原因になります。
- 使用中、グリルとびらを開けたままにしない。(グリルとびらを完全に奥まで押し込む。)
異常過熱によるやけどのおそれや機器の変形・変色の原因およびワークトップ(天板)をこがすおそれがあります。

点火・消火のしかた(グリル)

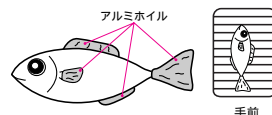
コツ

予熱

- 表面のこげやすいもの(つけ焼き、照り焼き、味噌漬けなど)や火の通りの悪い魚などは、予熱しないでそのまま焼いてください。
- 上記以外の魚や肉は、点火後約3分予熱し、温度があがってから材料を入れてください。

焼きかたのコツ

- 魚を美しく焼くには尾が手前にくるよう焼いてください。
- こげやすい尾やひれなどには厚めに塩をふりかけるかアルミホイルでおおって焼いてください。



魚などを裏返すときグリル水入れ皿を約1分以上引き出したままにする場合は一旦火を消してください。センサーがはたらいて消火する場合があります。

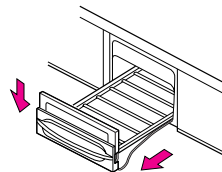
グリル水入れ皿の取り出しかたと取り付けかた

□取り出しかた

- グリルとびらをゆっくりと手前に止まるまで引き出し、少し持ち上げて、再度引き出してください。
グリル水入れ皿の水をこぼさないように注意してください。
・グリル水入れ皿は、グリルとびらと一体となっています。
・グリル水入れ皿は、ストッパーがついていますので、手前に引き出すと止まります。
・グリルとびらを引き出すと、グリルとびらガラスが下がります。

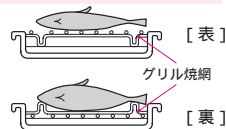
□取り付けかた

- グリルケースの底部へグリル水入れ皿を入れ、奥に当たるまできっちり入れてください。



グリル焼網の高さ調整

- グリル焼網の表・裏で高さを調節します。
「表」 焼網が高くなります。
「裏」 焼網が低くなります。
- 焼き物はグリル焼網に合った大きさに切り、グリル焼網にのせて焼いてください。



2 使いかた 安全機能・温度センサーについて

安全機能・温度センサーについて

安全機能のはたらき

バーナー	安全機能のはたらき
全バーナー	立消え安全装置 風などで火が消えたら自動的にガスを止め消火します。
標準バーナー (温度センサー付)	天ぷら油過熱防止 油の温度が高くなりすぎると自動的にガスを止め消火します。
揚げもの用	こんろ消し忘れタイマー 点火後約2時間経過すると自動的にガスを止め消火します。
グリル	グリル消し忘れタイマー(ブザー音(ビー)でお知らせします。) 点火後約30分経過すると自動的にガスを止め消火します。 調理物(魚など)の種類によっては、グリル消し忘れタイマーが作動する前に発火することがありますので機器から離れないようにし、焼きすぎに注意してください。 グリル水切れ検知センサー 空焼きなどによりグリル庫内の温度が異常に上がると自動的にガスを止め消火します。

安全機能がはたらいたとき

●器具栓つまみを**止の位置**にしてください。

注意

●天ぷら油過熱防止機能がはたらいたときは、鍋や油の温度が相当高くなっているため、注意する。
やけどのおそれがあります。

揚げもの調理時の注意

警告

●揚げもの調理するときは、200ml(コップ1杯)以上の油で使用する。
油が少なすぎると、機能が正しくはたらかず、発火する場合があります。

●揚げもの調理をされるときは、温度センサー(天ぷら油過熱防止機能)のついている標準バーナー(左前)を使用する。

火災のおそれがあります。

●標準バーナーは、器具栓つまみの近くに「揚げもの用」と表示してあります。またトッププレートに「揚げもの用」ラベルで表示しています。

●鍋の種類や油の量によって自動消火したときの油の温度は異なります。

揚げもの用

注意

温度センサーの注意

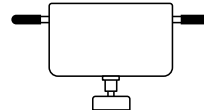
- 強いショックを加えたり、キズをつけたりしない。
- センサー部はいつも清潔にする。センサー部に汁やゴミが付着したときには水に布を浸し、固くしぼってからふきとるようにする。また、やかんや鍋などの底もきれいにする。
- センサー部を押し、スムーズに上下に動くか確認する。
温度センサーが正常に作動しない場合があります。



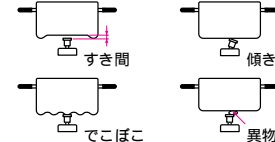
警告

正しい鍋ののせかた

- 鍋底は温度センサー頭部に密着するようにのせる。



- このような状態では使用しない。(調理油の量に関係なく発火する場合や途中消火する場合があります。)



- 鍋の重さは、温度センサーの密着を確実にするため300g以上(調理物の重さを含む)が必要です。特に片手鍋などは、不安定になりやすいので注意してください。

こんな調理はチャオバーナーでしてください。

- 標準バーナーは温度センサーが約250℃になると消火するようになってます。下記のような調理は途中消火することがありますので、チャオバーナーを使ってください。
 - ・ウイナー炒めなど、から焼きに近い料理
 - ・いりもの料理(ごま・大豆など)
 - ・焼きもの料理(お好み焼き・たこ焼きなど)

グリル水切れ検知センサーについて

- 次のようなときにグリル水切れ検知センサーがはたらいて自動的に消火します。
 - ・グリル水入れ皿に水を入れずに使用した場合
 - ・水の量が少なかった場合
 - ・使用中、時間を忘れて焼きすぎた場合(水の量が少なくなってきた場合)
 - ・魚などを裏返すときグリル水入れ皿を約1分以上引き出したままにする場合
- グリル水切れ検知センサーがはたらいた場合
 - ・グリル庫内の温度がある程度下がるまで再使用できない機能になっていますので、グリル水入れ皿に水を入れてしばらく(約2分)まってから点火操作をしてください。
 - ・グリル水切れ検知センサーがはたらいているときは点火操作はできませんが、手を離すと火が消えますので注意してください。

使いかた

2 使いかた 中華鍋・鍋の選びかたについて

《標準バーナー（温度センサー付）に適した中華鍋・鍋の選びかたについて》

中華鍋について

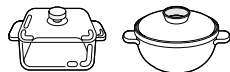
- 鍋底と温度センサーが密着していることを確かめてから使用してください。
- 中華鍋の種類や使いかたによっては鍋が安定せず、温度センサーが正しくはたらかしません。このようなときは、別売の中華鍋用補助ごとくを使用すると鍋が安定して使いやすくなります。中華鍋によっては別売の中華鍋用補助ごとくを使用しても、温度センサーに密着しないものがありますので注意してください。

鍋の選びかた

- 鍋底が温度センサーに密着しない鍋は使用しないでください。
鍋底が凹状になっているものを使用すると、温度センサーが正しくはたらかないことがあります。

警告

- 油料理をするときは耐熱ガラス容器・土なべなど熱が伝わりにくいものは使用しない。
- 油の量が200ml以下で使用しない。
天ぷら油過熱防止機能がはたらかず発火する場合があります。



料理区分	煮ものなど	炒めもの油料理など
鍋などの種類		
アルミ製の鍋・文化鍋 		油料理の場合 油の量： 200ml以上
ホーロー・打ち出し・ステンレス(厚手)の鍋 		油料理の場合 油の量： 200ml以上
ステンレス(薄手：鍋底厚み2mm未満)の鍋 		×
無水鍋(ステンレス厚手鍋) 		油料理の場合 油の量： 200ml以上
鉄製の鍋・中華鍋・フライパン 		油料理の場合 油の量： 200ml以上
土鍋・圧力鍋・耐熱ガラス容器 		×

：適しています。 ×：適していません。(温度を正しく検知しない場合があります。)

3 点検・お手入れ、他 点検・お手入れ

点検

各部品の取り付けは？

- トップレート・バーナーキャップ・煮こぼれカバーリング・ごとく・グリル排気口カバーなど正しく取り付けられていますか。

➡正しく取り付けてください。

☞ 19 - 21 参照

バーナーキャップは？

- 炎口が目づまりしていませんか。
- 傾いたり浮いたりしていませんか。

➡お手入れのしかたを参照してください。

☞ 19 参照

乾電池は？

《標準バーナー(温度センサー付)・グリルバーナー》



- 使用時電池が消耗してくると電池交換サインが点滅します。



- さらに電池が消耗してくると電池交換サインが点灯し、なります。



消火して使用できなくなります

《チャオバーナー・小バーナー》

- 電池が消耗してくると「パチパチ」というスパークの音が1秒間に約3回ぐらいの遅さになります。

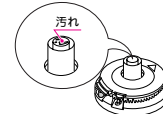
➡新しい乾電池と交換してください。

(乾電池の寿命はおよそ1年が目安です。)

☞ 8 参照

温度センサーは？

- センサー頭部が汚れたり、キズはありませんか。

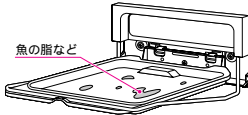


➡お手入れのしかたを参照してください。

☞ 19 参照

グリル水入れ皿は？

- 魚の脂などをたまっていませんか。



➡お手入れのしかたを参照してください。

☞ 20 参照

予備ガスコンセントは？

《予備ガスコンセントに接続しているガスコード(またはガスソフトコード)は？》

- ひび割れていませんか。
➡新しいコードと交換
(ゴム管用ソケットも同時に交換)

☞ 9 参照

- 折れ曲がりはありませんか。
➡正しく取り付けてください。

☞ 9 参照

3 点検・お手入れ、他 点検・お手入れ

お手入れ

使用ごとにお手入れしてください。汚れたままにしておきますと汚れが落ちにくくなります。

△注意

- お手入れは手袋をはめて。
はめないと機器の角などでけがをするおそれがあります。



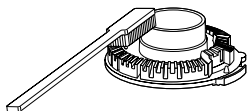
○お願い

- シンナー・ベンジン・アルカリ性洗剤・研磨剤入り洗剤・金属たわしなどは塗装の変質、はがれの原因となりますので使用しないでください。



バーナーキャップ

- 表面はスポンジと洗剤で丸洗いし、目詰まりしていたら裏面から歯ブラシを使って洗う。
- 煮こぼれたときは必ずお手入れしてください。



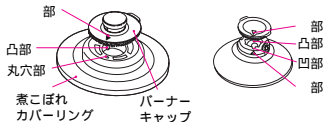
○お願い

- 強くこすったり、当てたりしない。
傷、ゆがみ、黒塗装変色・はく離の原因となります。

- バーナーキャップの取り付けかた
図のように正しくセットしてください。
チャオ・標準バーナーキャップは 部の下側にある凸部と丸穴部をはめ込み確実にセットしてください。

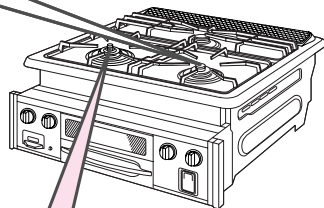
小バーナーキャップはキャップとバーナー本体の 部の位置を合わせ、キャップの凸部がバーナー本体の凹部に合うように確実にセットしてください。
バーナーキャップが傾いたり浮いたりしてないことを確認してください。

- チャオ・標準バーナーキャップ ●小バーナーキャップ



○お願い

- バーナーキャップを正しく取り付け。
バーナーキャップを正しくセットしなかった場合、点火しなかったり炎が不均一になり、異常燃焼や部品が焼損、変形するおそれがあります。



温度センサーは？

- 煮こぼれなどの汚れを布でふき取る。
(洗剤などは使用しない。)

点火プラグ・炎検出部が汚れていると、立消え・着火不良の原因となります。



○お願い

- 汚れをふき取る際、強い力に加え、傾けないようにしてください。
立消え・着火不良の原因となります。

機器表面・操作部

- 乾いた布でよくふく。
汚れが落ちにくいときは中性洗剤を含ませた布でふき取ってください。その後、乾いた布で水気をふき取ってください。

機器のガス栓を閉じ機器が冷えてから行ってください。けがをしないよう手袋などをして行ってください。

点検・お手入れ

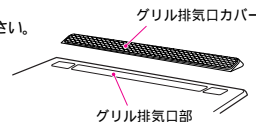
点検・お手入れ後のセット方法

グリル排気口カバー

- 台所用中性洗剤を含ませた布やスポンジで汚れをふき取った後、乾いた布で水気をふき取ってください。

汚れが落ちにくいときは台所用中性洗剤で丸洗した後、乾いた布で十分水気をふき取ってください。

- お手入れ後のセット方法
グリル排気口カバーはグリル排気口部に取り付けてください。



煮こぼれカバリング・グリル水入れ皿・グリル焼網

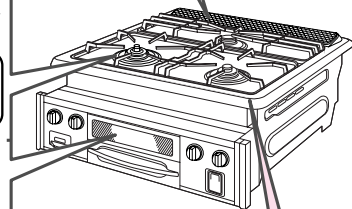
- 台所用中性洗剤を含ませた布やスポンジで汚れをふき取った後、乾いた布で水気をふき取ってください。

汚れが落ちにくいときはスポンジやナイロンタワシに台所用中性洗剤をつけて洗った後、乾いた布で十分水気をふき取ってください。

- お手入れ後のセット方法
グリル部のお手入れ後のセット方法については21ページを参照してください。

👉お手入れのしかたを参照してください。

📖 21 参照



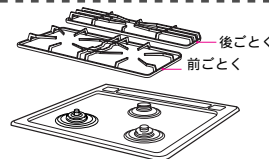
ごとく

- 台所用中性洗剤を含ませた布やスポンジで汚れをふき取った後、乾いた布で水気をふき取ってください。

汚れが落ちにくいときはスポンジやナイロンタワシに台所用中性洗剤をつけて洗った後、乾いた布で十分水気をふき取ってください。

取りはずしてお手入れできます。

- お手入れ後のセット方法
トッププレートシールパッキンをかぶさるように置き、煮こぼれカバリング、バーナーキャップを正しくセットした後、ごとくを取り付けてください。
ごとくは前後で異なります。大きい方が前、小さい方が後です。



3 点検・お手入れ、他 点検・お手入れ

点検・お手入れ後のセット方法

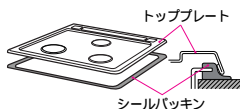
トッププレート(フッ素樹脂加工仕上げ)

- スポンジや布などのやわらかいもので軽くふき取ってください。汚れが簡単に落ちない場合は、台所用中性洗剤や水で汚れた部分を濡らせ、しばらくしてからスポンジや布などでふき取ってください。
- 汚れのたびに必ずお手入れをする。
汚れたまま放置されますとシミやフッ素コートのはく離の原因となります。

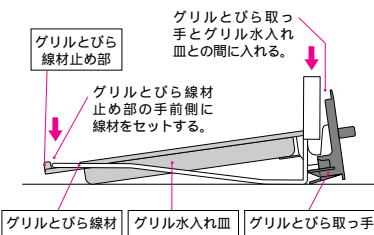
お願い

- フッ素コートは衝撃や高温に弱いので、たわし、ミガキ粉(クレンザー)、ナイフなどでこすったり、固いものをぶつかけたり、アルカリ性洗剤や漂白剤を使ったり、鉄板、土鍋などで異常過熱しないでください。傷、はく離の原因となります。また、ごとくの下に傷が付くことがあります。
- ごとく・煮こぼれカバーリング・グリル排気口カバーが当たるところは、表面の特殊加工がはがれる場合があります。

- お手入れ後のセット方法
トッププレートを取りはずしてお手入れされた場合は、必ず下図のようにトッププレートをシールバックンにかぶさるように置いてください。



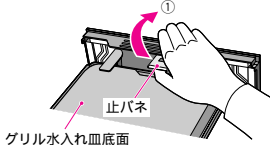
■グリルとびらガラスのセットのしかた



■グリルとびら取っ手の取りはずしと取り付け

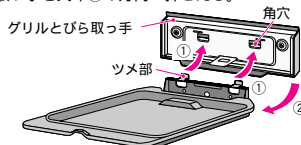
取りはずしかた

- グリル水入れ皿を裏返して持ち、止パネを矢印①の方向へ倒すようにして止パネをはずす。



取り付けかた

- グリル水入れ皿ツメ部を角穴にはめこみ(矢印①)、「カチッ」と音がするまでグリルとびら取っ手を矢印②の方向へ押さえる。








3 点検・お手入れ、他 故障かな?と思ったら

- 故障かな?と思ったらただちに使うのをやめてください。
- 故障かな?と思ってよく調べると故障でない場合があります。まず、次のことをお調べください。

こんなとき	原因	参照ページ
点火しない。 点火しにくい。 火が消える。	<ul style="list-style-type: none"> ● 機器のガス栓が全開になっていますか? ● 乾電池が消耗していませんか? ● バーナーキャップが傾いたり、浮いたりしていませんか? ● バーナーキャップの炎口が詰まっていますか? ● 点火装置・立消え安全装置が汚れたり、ぬれていませんか? ● 器具栓つまみを(点火)の位置までいっぱい回していますか? (数秒間(点火)の位置にしていたら?) ● グリル水切れ検知センサーがはたらいていませんか? 	8 18 18 18 23 11・13 16
ガスのおいがする。 いやなおいがする。	<p>ただちに使うのをやめ、機器のガス栓を閉じてから原因を調べてください。</p> <p>△警告</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 周囲に燃えやすいものやプラスチック製品などありませんか? 火災のおそれがあります。 ● 煮こぼれや風などで火が消えていますか? 	3 23
消火しやすい。 使用中火が消える。	<ul style="list-style-type: none"> ● バーナーに風が当たっていませんか? ● 煮こぼれがバーナーにかかっていますか? ● 立消え安全装置に煮こぼれや水滴がついていませんか? <p><標準バーナー(温度センサー付)側></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 鍋が焦げたり、油の温度が高くなっていますか? ● 温度センサーが汚れていませんか? ● 鍋を正しくのせていますか? ● 鍋底が凸凹していませんか? ● 火をつけてから約2時間以上たっていますか? <p><グリルバーナー側></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 火をつけてから約30分以上たっていますか? (グリル水切れ検知センサーの作動) ● グリル水入れ皿に水を入れてありますか(約300ml)? ● グリル水入れ皿の水が少なくなっていますか? ● グリル水入れ皿を引き出したままにしていますか(約1分以上)? 	15 19 16 16 15 16 16 16
黄炎で燃える。 炎が安定しない。 異常音をたてて燃える。	<ul style="list-style-type: none"> ● バーナーキャップが傾いたり、浮いたりしていませんか? ● バーナーキャップ炎口が詰まっていますか? 	18 18

3 点検・お手入れ、他 故障かな?と思ったら

● 次のような現象は故障ではありません

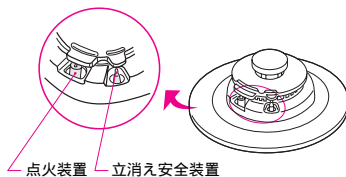
● はじめてグリルを使用するとき、煙やにおいが出る。		部品についている油が焼けるためです。13ページをご覧ください。から焼きをしてください。
● パチパチとすべての点火装置で音がする。		同時点火方式となっていますので、1ヶ所の点火操作ですべての装置が「パチパチ」とスパークします。
● 点火後や消火後にキシミ音ができる。		加熱や冷却される際に金属が膨張・収縮して起こる音です。
● こらんとグリルを同時に使うと炎が赤色になる。		焼き物の塩分（塩化ナトリウム）や水中に溶解しているカルシウムによるものです。
● 消火時「ボン」と音がする。		火が消えたときの音で異常ではありません。

● 以上のことをお調べになっても、なお異常のあるときやおわかりにならないときには、お買い求めの販売店または、もよりの大阪ガス（別紙お問い合わせ先一覧表）に連絡してください。不完全な処置や異常がある状態で使い続けると事故のもとになります。

立消え安全装置について

- 風や煮こぼれで消火した場合は立消え安全装置が自動的にガスを止めます。（完全にガスが止まるまで数秒かかります。）
- 再び点火されるときは窓や戸を開けて換気をし、ガスのおいが完全になくなってから点火操作をしてください。
- 立消え安全装置に煮こぼれや水滴がついたときはきれいにふき取ってください。また、立消え安全装置に硬いものをぶつけないでください。（点火不良の原因になります。）

（例）チャオバーナー



3 点検・お手入れ、他 アフターサービス

アフターサービス

サービスのお申し込み

- 22～23ページの「故障かな?と思ったら」を見て、もう一度確認してください。
- 確認のうえ、それでも不都合な場合あるいは、ご不明な場合はご自分で修理しないで買い求めの販売店または、もよりの大阪ガス（別紙お問い合わせ先一覧表）に連絡してください。なお、連絡されるときは、下記のことをお知らせください。

1. 品名 ガスピルトインコンロ
2. 大阪ガス商品コード
電池ケースフタの裏に貼付してあります。
例 (N)110-6061(U)
大阪ガス株式会社
21-052-02-00082
3. 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
4. ご住所・お名前・電話番号・道順（できるだけ詳しく）

転居される場合

ガスには都市ガス（数種類）およびLPガスの区分があります。

- ガスの種類が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので転居先のガスの種類をご確認のうえ、お買い求めの販売店または、転居先のガス事業者に連絡してください。この場合、調整・改造に要する費用は保証期間中でも有料となります。
- ガスの種類によっては調整・改造できない場合もあります。

保証・補修について

- 保証書に記載されているように機器の故障については、一定期間・一定条件のもとに修理いたします。保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。
- 無料修理期間経過後の修理については、お買い求めの販売店または、もよりの大阪ガス（別紙お問い合わせ先一覧表）に相談してください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。この製品の修理用性能部品《機能を維持するための必要な部品》の最低保有期限は、製造打ち切り後6年間です。但し、最低保有期間経過後であっても修理用性能部品の在庫がある場合は、有料修理いたします。

3 点検・お手入れ、他 仕様

仕様

品名	ガスビルトインコンロ
商品コード	110-6061型
型式名	C3G66KNZRG
点火方式	連続スパーク点火
安全装置	<ul style="list-style-type: none"> ・立消え安全装置（全バーナー） ・天ぶら油過熱防止機能 ・こんろ消し忘れタイマー（約2時間） ・グリル消し忘れタイマー（約30分） ・グリル水切れ検知センサー ・予備ガスコンセント過流出防止装置 <p style="text-align: right;">}（標準バーナー） }（グリルバーナー）</p>
付属品	取扱説明書・保証書・乾電池（単1形1.5V2個）・工事説明書 お問い合わせ先一覧表
外形寸法	高さ264mm×幅598mm×奥行494mm
質量（本体）	16.5kg

使用ガスグループ		1時間当たりのガス消費量kW				全点火時 ガス消費量	ガス 接続
		個別ガス消費量					
		チャオバーナー	標準バーナー	小バーナー	グリル		
都市ガス用	13 A	4.65 { 4,000kcal/h }	2.97 { 2,550kcal/h }	1.40 { 1,200kcal/h }	1.98 { 1,700kcal/h }	10.5 { 9,000kcal/h }	Rc1/2 (メネジ) R1/2 (オネジ)

本仕様は改良のためお知らせせずに変更することがありますがご了承ください。